

まちの話題

榊田の市で地域活性化



かつて行われていた市を復活し、地域に活気を呼び戻そうと、「第1回かんざき榊田の市」が10月8日、榊田宮そばで開かれました。

地元の新鮮な農産物や加工

子ども能に親しむ会を開催

9月22日、神崎市千代田文化会館で「神崎市子ども能に親しむ会」が行なわれました。

「神崎市子ども能に親しむ会」は、神崎市の将来を担う小学6年生を対象に、優れた歴史文化芸術で著名な講師を招き子どもの情操教育を図ることを目的とした、「神崎市歴史文化芸術体験事業」と、子どもたちに能楽の楽しさを知ってもらう「子ども能楽教室」が共同で行なったものです。



第一部は、脊振、神崎地区の子ども能楽教室の参加児童17

人が、夏休みから能楽師多久島法子さんに指導を受け練習した「狸々」、「岩船」を披露。本番では緊張した様子でしたが、着物姿に扇を持ち、他の児童の地謡に合わせ一生懸命舞いました。また、能面体験では、9人の児童が面の説明を受けながら実際に面を掛け舞台上を歩き、視界の狭さに驚いていました。

第二部は、福岡を中心に活躍されている能楽師多久島利之さん、狂言師野村万緑さん達による能「船弁慶」が演じられ、能の幻想的な世界を楽しみました。

ふるさとの実を堪能



10月6日に千代田町の小中学校で菱の実給食が実施されました。この菱の実給食は、平成7年に地元の特産品である菱の実を味わってもらおうと千代田

町学校給食共同調理場がメニューに追加。下直鳥地区の菱の実のふるさと会の協力を得て、毎年1回

菱の実の塩ゆでを子どもたちに提供しています。

当日、千代田中部小学校では、給食の時間に先生から菱の実の取り方や食べ方について説明された後、美味しそうに菱の塩ゆでを食べていました。

1年生の教室では、初めて菱の実を食べる児童も多く、慣れない手つきで皮をむき、「皮が苦い」「少し栗の味がする」などふるさとの味を堪能しました。

千代田中部小学校の永淵由利校長は「ふるさとはこんな食材があることを知ってほしい。今の方法での菱の実給食は最後だが、給食センターが稼働しても続けてほしいですね」と話していました。

創作劇を児童が熱演

脊振小学校の児童たちが10月6日、市内を中心に活動しているお話し会「ケムケム」と一緒に、地元を舞台にした創作劇を披露しました。

発表したのは「せふりの弁じゃあさまと親不孝カエル」です。ケムケム代表の佐藤悦子さんが、親不孝カエルの民話をもとに、脊振山頂にまつられる弁財天や水をつかさどる竜王伝説をモチーフにして創作。川の側に埋めた母ガエルの墓が流されるのを心配する子ガエルが弁財天の助けを受け、傷つきながらも墓を守り抜く姿を描いています。



5、6年生9人がカエルや遠足の子ども、ナレーター役などで出演。全校児童や授業参観に訪れた保護者などが見守る中、感情豊かに演じました。

田中さんの長寿を祝う

敬老の日に伴い、9月21日に、市長が市内の100歳以上の方の自宅や入所施設などを訪れ、長寿を祝いました。

9月1日現在での市内在住の100歳以上の方は23人で、今年度末までに100歳を迎えられる方は7人となっています。神崎市最高齢者は、105歳(明治39年生まれ)の田中テルさん(神崎町)です。

市では新80歳の方にも長寿祝金を交付しており、今年度の支給対象者は、309人となっています。



▶最高齢の田中テルさん(手前)らに祝金をお渡ししました



子どもと高齢者の交通安全を呼びかけ

9月21日から30日までの10日間、秋の交通安全県民運動が実施されました。この運動にあわせ、9月21日

東京で個展を開催

神崎町本堀在住の書道家の松永豊秀さんが、東京銀座画廊・美術館で書作展を開催しました。松永さんは小学1年生から書道を始め、20代後半に日展で入選してからは同展の常連となり、現在は書道家として活躍。東京で月1回、福岡や佐賀でも月2回、門下生などに教室を開いています。

書作展には41点の作品を展示。6日間の展示期間中には、

には千代田町の「シヨッピングセンターアニー」と「ユートク千代田店」の両駐車場で街頭キャンペーンが行われました。キャンペーンでは、千代田町交通安全協会等の皆さんが、同店を訪れた買い物客へ、交通安全チラシやドライバー手袋などを配布して、交通事故防止を訴えました。

カーブミラーがきれい

9月26日、神崎市千代田町内で、社団法人神崎建設業協会(牟田正明会長)会員14社のメンバー30人が交通事故防止及び



マスコミをはじめ、関東在住の友人、書友、佐賀からの関係者など多くの来場者が訪れ、松永さんの作品を楽しみました。



地域美化活動のため「カーブミラー磨き」を行いました。同協会の地域貢献活動は、8年前から実施され、今回は春に続き2回目。この日は、約300

基のカーブミラーが磨かれ、鏡面は元の光沢を取り戻しました。牟田会長は、「毎年、重点事項を決め、今後も地域貢献を行っていききたい」と話されました。

東野ヶ里地区が優勝 神崎市ゲートボール大会



▶優勝 東野ヶ里地区

第24回全国健康福祉祭くまもと大会「ねりんぴつく出場1熊本」に出場される選手の方々が、出場報告のため市役所を訪れました。

ねりんぴつく出場 健闘を誓う



出場されたのは、神崎町の愛甲博光さん、福田稔さん、奥園博昭さん、野副トキ子さんの4人で、10月16日から行われたベタク競技に出場されました。

9月25日、第6回神崎市ゲートボール大会(神崎市体育協会主催)が神崎中央公園グラウンドで行われ、市内から24地区、152名が参加して、熱戦を繰り広げました。参加者は秋空のもと元気に体を動かし、ゲートボールを通じて交流を深めていました。大会結果は次のとおりです。

- 優勝 東野ヶ里(千代田町)
- 準優勝 崎村(千代田町)
- 3位 本堀(神崎町)

道路上の安全を守る

危険箇所の情報提供に関する協定調印式

神埼市内の郵便局6局、郵便事業2支店、タクシー会社2社と神埼市との間で、道路等危険箇所の情報提供に関する協定調印式が9月26日、神埼市役所で行われました。

この協定は、道路を業務でいつも使う郵便、タクシー業者と連携することで、道路の陥没、穴ぼこなど危険な箇所を早期に発見、その情報を市に提供してもらい、それに基づき応急処置などを実施し、被害拡大と事故防止を図ります。

調印式で松本市長は「多くの市民の事故防止になるよう、皆さまからの情報をいかし、円滑な対応ができるように頑張りたい」と話し、事業者を代表して仁比山郵便局の宮崎明雄局長が「この協定がより良い内容になるように努力したい。少しでも市民生活の向上につながれば」と話されました。

この協定は、市道だけでなく、国道、県道などすべての道路も対象になっています。神埼市では平成18年から道路破損による事故が6件あり、今回の協定調印はその減少に繋がるものと期待しています。



地域ブランドづくりへ連携

商品開発研究の連携に関する協定書調印式

神埼市と西九州大学との商品開発研究についての連携に関する協定調印式が9月20日、神埼市役所で行われました。

この協定は、地域ブランドづくりを連携して推進し、力強く活気のあるまちづくりの実現を目指すのが目的です。協定調印により、西九州大学とこれまで以上に連携し、地域の生産者、製造者とともに新たな商品開発への取り組みが可能になります。



菱の実製品

また、商品開発だけでなく、市が大学の教育研究に参画することで、学生の実地体験や、大学側から生産者、製造者へのアドバイスなどを得られることとなります。

現在、具体的に進行しているのは、神埼市が収穫した菱の実の皮を大学側に提供し、それを元にした「菱の実パン」「菱の実丸ぼうろ」の開発です。

調印式で松本市長は「研究の材料として利用いただき、自治体と学校が協力することで大きな力を得ることができ、感謝しています」と話し、西九州大学の福元裕二学長は「神埼市の豊かな資源を有効に活用し、食品開発などで地域と大学の発展に繋げていきたい」と話しました。



ドングリの木切らないで

西郷保育園園児らが署名を提出

9月28日、西郷保育園の園児とその保護者たちが市役所を訪れ、園庭にある榎の木移植を求める署名約1,300人分を松本市長に手渡しました。

子どもたちが「ドングリの木を切らないでください」と松本市長に署名を手渡すと、松本市長は「市長としては残してあげたい。みんなの希望をつないでいきます」と移植の方向で検討することを約束しました。



▲園庭の榎木(昨年12月撮影)

市では、新しい園舎と園庭が完成すると、運動などで利用する場合に園児が木にぶつかってけがをする恐れがあるとして、撤去について検討中でした。

署名提出を受け、新しい園庭の邪魔にならない新園舎玄関前に移植することを決定しました。



神埼町小湊地区で事業完了!

コミュニティ助成事業

平成23年度コミュニティ助成事業で採択を受けている3団体のうち、次の1団体において助成事業が完了しました。

◎小湊地区

・神輿、はんでん整備 (一般コミュニティ助成事業)



▲神輿 (神輿台、担ぎ棒付)

この事業は、(財)自治総合センターが、コミュニティ活動の助成を行うことにより、コミュニティの健全な発展を図るとともに宝くじの社会貢献広報事業を行うことを目的に実施されています。





～イケメン日記～

10月26日の放送で、市報編集メンバーを招いてお送りした“神埼トリビアサミット”聞いていただきましたでしょうか。(聞き逃した方はUSTREAMやPODCASTにもアーカイブが残っていますので、詳しくはFM佐賀のHPから！)

それではここで、本編で出題したクイズの答え合わせを行いましょ。問題は、『仁比山出身の有名俳優といえば、映画「転校生」や「トラック野郎御意見無用」で知られる佐藤允さん。では、佐藤さんが声を担当した国民的人気アニメ作品のキャラクターとは?』でした。分かりましたでしょうか? ヒントは「ジブリ作品」。

さっ、皆さんの脳内を様々なキャラクターが駆け巡っているかと思いますが～答えは! 「もののけ姫」の冒頭に村を襲う、化け物に変容してしまった猪姿の神「タタリ神」でした。予想外だったのではないのでしょうか(笑)。そう思って見ると、もののけ姫の舞台も古代の神埼に見えてきたり…

さて、今月は映画つながりで、神埼トリビアをもうひとつ。千代田町出身の作家・下村湖人の代表作「次郎物語」。何度も映像化が試みられている本作が1987年に映画化された際の主題歌「男は大きな川になれ」は、スメタナの「わが祖国・モルダウ」というクラシッ

ク曲に“さだまさし”さんが詞をつけたものでした。この「次郎物語」と「わが祖国・モルダウ」には様々な共通点があります。

「次郎物語」は、五・一五事件や二・二六事件など軍国主義に邁進する日本を背景にしながら、旧来の“良き日本の精神”を描写した作品でした。一方、「わが祖国・モルダウ」を作曲したスメタナは、フランス革命が波及し、混乱を極めた時代のチェコに育ちながら、祖国チェコの個性を初めて音楽にしたチェコ国民楽派の開祖とされています。

どちらも混沌に突入する祖国を憂いながら、“失ってはいけないもの”をメッセージとして託した…そんな共通点を持った作品と言えるのではないのでしょうか。「次郎物語」の主題歌に「わが祖国」を引用したさだまさしさんの音楽的教養には頭が下がるばかりです。

ちなみに、次郎の生い立ちはジョン・レノンとも重なるものがあるのですが…この話は、また次回ということで。

FM佐賀 MY DEAR 神埼

【放送時間】毎週水曜 12:00～12:55

【FM佐賀のホームページ】

<http://www.fmsaga.co.jp>

いきいき大学 60歳からの学びの舎

とき	ところ	テーマ	講師
11月10日(木) 〈受付〉 9:30～	神埼市中央公民館	野菜づくりとガーデニング	直販店舗課 J A産直「うちの畑」 店長 松永 義治
12月 1日(木) 〈講義〉 10:00～11:30	はんぎーホール	笑って 元気 ～必要とされる喜び～	大分県文化振興県民会議委員 矢野 大和

※マイクロバスは脊振総合支所前、神埼市中央公民館前、千代田総合支所前をいずれも午前9時出発です。ご利用の方は遅れないようにご集合ください。

いきいき大学はいつでも入学できます。脊振公民館、神埼市中央公民館、千代田総合支所社会教育課で、教材費を添えてお申し込みください。講座日の会場受付でも手続きできます。 ※教材費：年間1,000円
◎問い合わせ先 神埼市中央公民館 ☎53-2325

有料広告



訪問介護ステーション
さくら・介護ステーション神埼

「さくら」から

ヘルパーさんを募集!

☎0952-20-2188

責任者:岡田



綾部接骨院に隣接 神埼市神埼町本堀 3194

地域に密着した事務所です

借金問題(債務整理)・相続・遺言・不動産登記
商業、法人登記・成年後見

料金の見積り等も、気軽にお尋ね下さい

営業時間 午前8:00～午後6:00

時間外も、電話予約OK

司法書士 すえなが総合事務所

TEL 0952-52-2079(神埼サピエより南に100m)

司法書士 末永博義・井上智史

有料広告